

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	多様な水辺環境の保全・創出		
配慮事例	工法の工夫による多様な生息・生育環境の創出		
内容	<p>現地発生材（自然石）の在置による水際環境の創出</p> <p>【解説】</p> <p>エコトーン（移行帯）ではわずかな地盤高の違いが冠水頻度や流れの強弱、土壌水分の違いとなり、それぞれの環境に適応した植物群落が成立する。</p> <p>護岸の設置や河道掘削を行った際には、エコトーンの保全や再生をするために、現地発生の砂礫により寄せ石や礫河原を造成することにより、陸域では水辺植生の生育基盤、水域では魚類等の隠れ場として機能することが期待できる。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>現地発生材の活用</p> <p>寄せ石の設置にあたっては、現地発生材による自然石を用いることが効率的である。この際、様々な大きさの自然石を利用することで、水中の空隙は複雑となり、魚類等の隠れ場として機能する。</p> <p>寄せ石上の土砂堆積</p> <p>出水等により寄せ石に土砂が堆積することで、ヤナギ類や草本類などの植物の生育基盤となり、さらに冠水頻度や土壌水分量の違いによりエコトーンが形成される。また、陸域部分では、外来種の少ない現地表土を用いて覆土を行うことで、植生の回復にもつながる。</p>		

【事例 1】



留意点

【場所】
兵庫県 加古川

【環境配慮の内容と方法】
・工事で発生した自然石を撤去せずに河道内に存置した。

参考資料

- 1 「ひょうご・人と自然の川づくり事例集 2011 生態系に配慮したひょうごの川」兵庫県県土整備部土木局河川整備課河川計画室